

平成 26 年度 第 2 回 焼津市地域公共交通会議 会議録	開 催	日時 平成 26 年 10 月 16 日 午後 2 時～ 3 時 30 分	平成 26 年 10 月 16 日 午後 2 時～ 3 時 30 分
		場所 市役所会議室棟 101 号室	市役所会議室棟 101 号室
報告事項	(1) 平成 26 年度 焼津市内バス路線の利用状況 (4～8 月) について (2) (仮称) 下根方地区デマンド型乗合タクシー導入検討のための地区説明会について (3) 平成 27 年度 生活交通ネットワーク計画の認定及び補助額の内定について		
協議事項	(1) 焼津市バス路線運行計画 (案) について		
出席者 22 名	(公共交通会議) 会 長 半田 充 (焼津市) 委 員 勝山 和彦 (しずてつジャストライン(株)) 委 員 田中 茂 (株)アンビ・ア 委 員 平野 洋一 ((一社) 静岡県バス協会) 委員(代理) 高柳 文明 (静岡県タクシー協会志太榛原支部) 委 員 加藤 建司 (中部運輸局静岡運輸支局) 委 員 大塚 正訓 (しずてつジャストライン労働組合) 委員(代理) 山中 雄次 (静岡県交通基盤部) 委 員 杉本 則尚 (島田土木事務所) 委員(代理) 望月 克彦 (静岡県焼津警察署) 委 員 岩崎 四郎 (焼津市自治会連合会) 委 員 山内 道弘 (焼津市自治会連合会) 委 員 岡本 勝市 (さわやかクラブやいづ連合会) 委 員 遠藤 耕輔 (さわやかクラブやいづ連合会) 委 員 村上 とき子 (焼津市民生委員児童委員協議会) 委 員 古桑 容子 (焼津市社会福祉協議会) 委 員 寺尾 隆之 (焼津市) (アドバイザー) 松本 幸正 (名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授) (事務局) 篠宮 和行 (都市基盤部都市計画課長) 落合 和弘 (都市基盤部都市計画課公共交通担当主幹) 平田 規善晴 (都市基盤部都市計画課公共交通担当) 鈴木 俊之 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング)		
欠席者 1 名	委 員 新井 恵子 (静岡福祉大学)		
傍聴者	なし		
議事内容			
会議の成立	委員総数 18 名の内 17 名が出席。過半数を超えているため会議は成立。		
報告事項	(1) 平成 26 年度 焼津市内バス路線の利用状況 (4～8 月) について ・利用状況の報告の前に前回の質問事項について回答。 ・自主運行、民間路線ともに前年に比べ利用者数が増加している。		

	<p>(事務局)</p> <p>○増加の原因を分析し、今後につなげていただきたい。(平野委員)</p> <p>○利用促進として自治会でバスを利用した史跡散策ツアーを企画し、11月に実施の予定である。地域住民による企画であり、利用拡大につながると思うので、行政でもきめ細やかなPRをして利用促進をしてほしい。(岩崎委員)</p> <p>(2) (仮称) 下根方地区デマンド型乗合タクシー導入検討のための地区説明会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下根方の地区役員会において、昨年度実施した導入検討に関するアンケート調査の結果と今後の方針について行った地区説明会について報告。 ・今後の方針について、地元の皆様に制度を理解していただくために説明会を実施していく。(事務局) <p>○デマンドという表現は高齢者にはわかりづらいので、説明会では日本語での表現を加えて話をしてほしい。(遠藤委員)</p> <p>⇒今後は、事務局において日本語での説明を心がけるように。(半田会長)</p> <p>(3) 平成27年度 生活交通ネットワーク計画の認定及び補助額の内定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の公共交通会議で協議いただき、国に申請をした生活交通ネットワーク計画(地域内フィーダー系統確保維持計画)について計画通り認定され、補助額の内定を受けた。(事務局) <p>(松本教授より)</p> <p>○利用が増えている要因について把握してほしい。グランリバー前バス停の利用が伸びていない事が気になる。商業施設に隣接したバス停であり買い物客を見込んでいると思うが、ダイヤに問題があるケースがあるのでそういった点を調査し改善してみてはどうか。</p> <p>○デマンドタクシーについてコストが削減できる旨の説明があったが、運行内容やタクシー事業者との契約内容によってはコストが増える場合もあるので注意が必要である。</p> <p>○自治会など地域の取り組みについて行政にお願いしたいこと(広報・周知などへの協力)があれば、公共交通会議の場で発言していただければよい。</p>
協議事項	<p>(1) 焼津市バス路線運行計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼津大島線及び藤枝吉永線を大井川庁舎に乗入れることにより、路線バスと自主運行バスの乗り継ぎ拠点とする。同時に、路線が過剰的な大井川焼津線の市立病院から焼津駅までの区間について減便又は区間廃止をして、大井川地区の効率的な公共交通ネットワークの構築を目指す。(事務局) <p>○西焼津駅水守線について、焼津市民で利用している方が少ないと感じるが、PRが不足しているのではないか。(遠藤委員)</p> <p>⇒藤枝市の自主運行バスということもあり、焼津市として積極的なPRができてい</p>

なかった。(事務局)

○計画案にある退出路線や新規路線について具体的なスケジュールは決まっているのか。(加藤委員)

⇒(仮称)下根方地区乗合型デマンドタクシーについては、昨年度タクシー事業者と対象範囲や運行方法などについてある程度の話し合いをしたが、地元との協議が不十分であり、導入に至らなかった。今後、導入の可否を含め関係者と協議を進めていくが、現在のところ具体的なスケジュールは決まっていない。(事務局)

○運行計画(案)について運行事業者の発言をお願いしたい。(半田会長)

⇒焼津大島線の延伸と大井川焼津線の見直しについては、平成24年度の再編の際に焼津市から焼津大島線の延伸の要望があったが、150号線の交通渋滞のためお断りした経緯がある。はばたき橋の開通により、交通渋滞は消されたが、慢性的な運転士不足という問題もあり、路線の拡大には焼津市の路線をより効率的なネットワークに再編してないと難しい状態となっている。なお、延伸により生ずる欠損については補助をしていただきたい。(勝山委員)

○大井川の西部地区は藤枝駅が近く生活交通もそちらに向いている。藤枝駅に接続する路線であれば利用は望める。近隣の自治会長も同様の意見が多く、検討をしていただきたい。(山内委員)

○焼津中央高校近辺は人口も増えておりバス利用の需要があると思うので、路線の導入を検討すべきだと思うが。(遠藤委員)

⇒(仮称)大覚寺線については平成24年度にアンケートを実施し導入について検討をしたが、新規路線にしる既存路線の延伸にしても新たな費用が発生するため早急な導入は困難である。今後、焼津市全体の交通ネットワークの見直しの中で導入について検討をしていく。(事務局)

○西焼津駅水守線の今後対応はどうか。(山中代理委員)

⇒現在のところ藤枝市の運行継続基準である収支率15%の達成が困難であるということまで聞いている。藤枝市として今後どのような対応をしていくのか担当者に確認をする。退出については改めて1月の公共交通会議で協議し対応を決定していただく。(事務局)

⇒半年間の状況であり、持ち直しもあり得る。今後の状況を見ながら検討を進めていただきたい。また、市域を跨ぐ路線であり何かあれば県に相談していただきたい。(山中代理委員)

○運行計画(案)によると変更後は大井川庁舎が民間路線バスと自主運行バスの結節点となる。そのため、ダイヤの変更や待合室の整備など、乗り継ぎ拠点としての調整を進めていただきたい。(平野委員)

⇒今後、関係者と協議をしていく。(事務局)

○変更後、大井川地区で大井川庁舎周辺以外の方は焼津駅に行くために乗り継ぎが必要となる。乗り継ぎ割引の導入などを検討してほしい。また、大井川庁舎に路線バスが乗り入れをするのであれば、高齢者の中には遠くまでの運転が不安であるが大井川庁舎までは自家用車で来て、そこに車を駐車しバスで遠くまで行く、

といった使い方をする方もいると思うので、そのようなことも検討していただきたい。(岡本委員)

⇒乗り継ぎ割引や結節点でのパークアンドライドについては連携計画にも検討事項として挙げられている。今後の検討課題とさせていただく。(事務局)

○燃料費削減のためにバスを小型化してはどうか。(村上委員)

⇒現在使用している車両があるため、新たな路線又は車両の買い替えの際に検討させていただく。(事務局)

⇒法律が改正され、23人乗り以下の小さな車両でも定期定路線の運行が可能となった。ただし、車イスに対応するためには追加費用が発生するため、価格的なメリットは小さくなる。(勝山委員)

○ミニディサービスのレクレーションの際にバスを利用したこともあるが、ミニディサービスの利用者の方は足が悪い方が多いため、車イスに対応した車両も必要だと思う。(古桑委員)

○ミニディサービスの利用者など高齢者は外出する機会が少ない。こういった方たちの外出を支援するためにも小型の車両が必要かと思う。(遠藤委員)

○変更後は市立病院止が結節点となり、今まで以上に多くのバスが同時に集まることになる。また、病院は通院者や見舞客などが出入りするため事故発生の危険性が高い。このため、十分なバスの待機スペースを確保していただきたい。(大塚委員)

⇒事務局は待機スペースの確保について検討するように。(半田会長)

(松本教授より)

○大井川焼津線の退出検討区間について、代替手段や利用状況など具体的なデータを示して協議をしていただきたい。また、代替手段がないバス停については、利用の多い少ないにかかわらず、そのバス停を利用している方がいる限り、退出についての説明を十分にしたうえで進めることが必要である。地域で作ったバス路線が一方的になくなることは行政に対する不信感につながるため、きめ細やかな対応を是非していただきたい。

○退出申出をしている西焼津駅水守線について、焼津市としての考えはどうか。
⇒実施主体である藤枝市が退出する意向であれば、やむを得ないと考える。(事務局)

○退出については地域の方の声を聴いたうえで決定をしていただきたい。これからの公共交通は地域の方との協働で支えていくことが大事である。

○今後は他の交通手段がなくバスを利用している方がいるということを考え、利用者の立場に立った計画をしていただきたい。

○焼津中央高校付近への路線の導入について、高校生をターゲットにすることは今後のバス利用につながる戦略であり、有効である。

○退出や新規路線を検討する際には具体的な経費の金額を示して協議することが大切である。データをすべて出したうえで委員の皆さんで決めていただく。そし

	<p>て決めたことに対して委員の皆さんが責任を持つ。こういった姿勢が望まれる。 ⇒今後は今回のご意見を踏まえて検討をしていきたい。(半田会長)</p> <p>○焼津市バス路線運行計画(案)に賛成の方は挙手を願う。(半田会長) ⇒出席委員の賛成総意により承認。</p>
--	---